

フォーラムニュース Vol.47 2023 2/10

発行：「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責：大竹永介

私たちのフォーラムは「平和で民主的な社会」を次世代の子どもたちに残していくことが大人の責務である、という考えを基本に活動を続けています。しかし、残念ながら昨年来の「防衛力強化」の掛け声とともに、今ほど「戦争」というものが現実味を帯びた時代はないように思えます。そんな日本の現状はアメリカに住む作家からはどんなふうに見えているのでしょうか。児童書から一般書まで旺盛な執筆活動を続けられている小手鞠るいさんからご寄稿いただきました。（編集部）

《特別寄稿》

戦争を生き抜いた 92 歳の「少年」

小手鞠るい



新年の挨拶をするために、ニューヨーク州の森の自宅から、岡山にある実家

に電話をかけて、久しぶりに父の声を聞いた。私の父は現在、92 歳。日本が満州事変を起こした年に生まれ、太平洋戦争と戦後の混乱期を生き抜いてきた。青春時代をまるごと戦争に奪われていた世代である。

父は娘（66 歳）に語気荒く語った。

「今の日本を見ていると、恐ろしくてたまらなくなる。日本の戦前の状態と、そっくりそのままおんなじじゃ。防衛費を捻出するために増税？ なんの議論もせず、国会で話し合うこともなく、国民に意見を訊くこともなく、勝手に法案を通しておいて『はい、決まりましたよ』と報告するだけ。こんなことが再び起こっていいのか！」

実は私もアメリカの片すみで、同じような疑問と怒りを抱いていた。「防衛のため」という言葉は、国民を騙すための隠れ蓑に過ぎず、実のところ「防衛費」とは「軍事費」に他ならない。自衛隊とは、れっきとした軍隊である。アメリカでは、日本の自衛隊の戦闘能力の優秀さがよく話題に上っている。合同訓練も盛んにおこなわれているようだ。

このような報道を目にするたびに、日本の人たちはどう思っているのだろうか、と、危機感を抱き続けてきた。ごはんも満足に食べられない子どもたちが

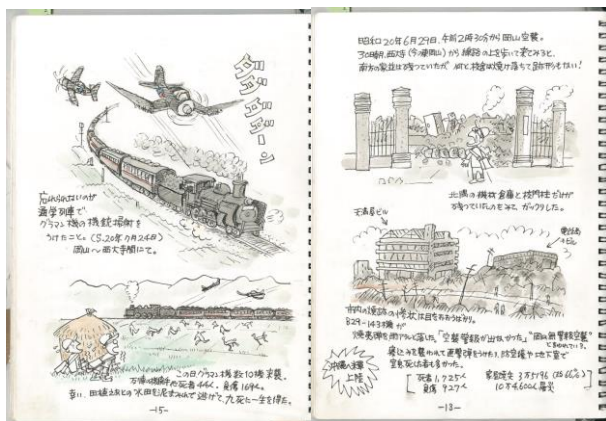
いるという「先進国日本」で、これ以上、軍事費を増やして、いったい何をどうするつもりなのか。

「なんで中国や韓国の人たちと仲ようできんのか。太平洋戦争の反省は、やっぱり口だけじゃった。今の日本の政治を見てみると、腹が立ってしょうがない！ 戦争へ行かされて、無駄死にさせられる若者たちがまた出るんかと思うと、無念でならん」

父は、少年時代から絵を描くのが好きで、得意だった。成長後、電話局（現在のNTT）で働くようになってからも、社内報に四コマ漫画を寄稿したり、広報用のポスターを描いたりしていた。そんな父が数十年前に描いて、アメリカまで送ってきてくれたスケッチブックが私の手元にある。タイトルは「マンガ自分史」。父が生き抜いてきた戦争の記憶と記録が漫画でつぶさに表現されている。このスケッチブックに基づいて創作した子ども向けの物語を、父の絵と共に今年の夏、上梓する予定である。日本が平和ボケをしていた時期には、誰からも見向きもされなかった父の絵と体験談。今、それが必要とされる日本になってきていることを、私は全身全霊で憂う。

（こでまりるい：作家。1956年生まれ。1992年からアメリカに移住）

★『川滝少年のスケッチブック』（仮）は6月下旬講談社から刊行予定！



左はその本に収録予定の「スケッチブック」の一部です。過去から未来へ、「戦争」をどう伝えていくか。私たちに課せられた大きな課題です。（ISBN978-4-06-531731-0 予価 1400 円）

●2月のフォーラムニュースをお届けいたします●新型コロナウイルスを5月8日から第5類扱いにする、という政府の発表がありました。本当に大丈夫だろうか、と根が疑り深い筆者などはふと心配になってきます●インフルエンザの場合は感染してもどこのクリニックでも診てもらえますし、薬もあります。しかし、新型コロナの場合「インフルエンザと同じ」というのはあくまで法律上の立て付けの問題。実際専門家からはかえって診てもらえる病院は減るのでは、という声も聞かれます●経済を回す必要もわかりますし私自身以前のようにピリピリ外出を控えるようなことはしていませんが、結論ありきの焦りでないことを祈るばかりです。（0）